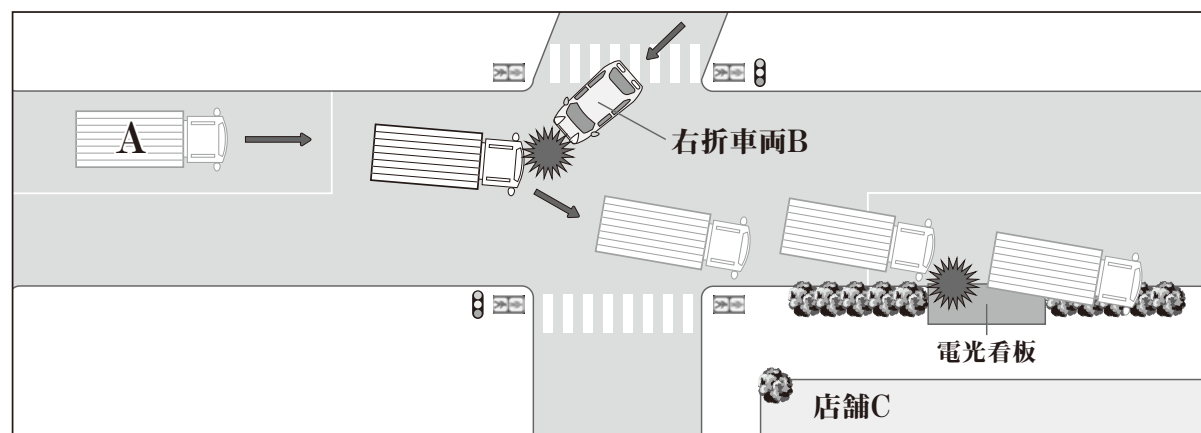


職場における交通安全指導

Part 122

交差点を信号無視で進入、左方からの車両と店舗看板などに衝突



■事故の概要

●事故の当事者

運転者A (大型貨物車) : 40歳代、男性
運転者B (普通乗用車) : 30歳代、女性
被害者C : スーパーマーケット

●被害状況

A : 車両前部中破
B : 重傷 (頸椎捻挫、腰部挫傷等)
車両大破
C : 生垣、電光看板損壊

●道路状況

片側一車線の国道

事故状況

入社後半年になるAは、入社前に勤めていた運送会社で15年ほど中型貨物車の乗務経験があったため、現在の会社では大型貨物車に乗務するようになり、運転にも慣れてきた頃であった。

事故当時は、工場から冷凍食品類を積み込み、県内の倉庫に搬送中であつた。自社を早朝に出発し、工場で積み込み作業を終え、倉庫に向かうため国道を走行中に交差点の手前で信号を見ると歩行者用信号が赤色に変わったところで、携帯にメールの着信があつた。

前方に車がないことから、このまま行けると思いメール画面を見ながら直進していると、左方から普通乗用車が走行してくるのに気づき、急ブレーキを掛けたが間に合わず普通乗用車に衝突、反対車線のスーパーマーケットの生垣と電光看板に衝突した。交差点進入時、信号はすでに赤色になっていた。

事故の原因

この事故の原因は、Aは信号はまだ青色なのでこのまま行けるだろうと思い、メール操作しても大丈夫という誤った判断から、携帯電話の画面を注視しながら走行してしまった脇見による前方不注視です。

安全指導

事故の原因は、携帯画面への脇見による前方不注視ですが、その背後には運転に慣れた頃に陥る過信や油断の存在があげられます。

「慣れ」は、乗務経験の浅い運転者にとっては自信につながり、運転面ではプラスに作用することがあります。しかし、「運転に慣れた頃が危ない」といわれるように「慣れ」は、気持ちの面で危険

感受性を低下させる働きがあり、今回の事故のように「交差点を脇見運転で通過する」という危険行動につながりやすく、事故の危険性を高めることとなります。

脇見運転とはその名の通り、前を見ないで運転することで、前方から視線を外して運転して、安全確認ができない状態で走行するため非常に危険です。

車は、目を離すと速度に対してかなりの距離を進みます。例えば、時速50Km/hで走行していた場合、1秒間で約14mも進みます。特に今回の事故のように車や人が多く集まる交差点付近での脇見は、少しくらいなら大丈夫という気の緩みが重大事故につながります。

脇見運転の防止策

脇見をせず、前方に注意を向けるには次のポイントがあげられます。

1. 運転に関係のない操作や動作は、必ず車を停めてから行いましょう。

カーナビや携帯電話等の画面を注視したり、手に持って通話することは、道路交通法で禁止されており、2019年12月1日に罰則も強化されました。

携帯電話の罰則

携帯電話使用等 (保持)

【罰則】 6月以下の懲役又は10万円以下の罰金
【点数】 3点

携帯電話使用等 (交通の危険を生じた場合)

【罰則】 1年以下の懲役又は30万円以下の罰金
【点数】 6点 (免許停止)

カーナビや携帯電話等に限らず、オーディオ操作や伝票確認等の動作は、意識がそちらに向いてしまい、周囲の情報の認知が遅れたり見過ごしたりし、事故を起こす危険性が高いことから、運転に関係のない操作や動作をするときは、必ず安全な場所に車を停めてから行いましょう。

2. 興味・関心の対象に目が向いてしまうときは、いったん車を止めましょう。

人は、興味あるものやそれに関連したものに目を向ける習性を持っています。目的地の建物を探したり、案内標識や美しい景色、興味のある看板、車外の光景を見たりするときは、安全な場所に車を停めてから行いましょう。

3. 座席やダッシュボード上は、整理整頓に努めましょう。

座席やダッシュボード上に物を置くと、加速や減速をしたとき、カーブを曲がる際の遠心力の作用や路面の凹凸で車体が揺れたときなどに、ずれたり落ちたりする可能性があり、そちらに気をとられて視線がそれてしまう危険性があります。

小物類はグローブボックスの中に入れ、座席やダッシュボード上には物を置かないようにしましょう。また、万が一物がずれたり落ちたりした場合は、走行中に落ちた場所を探したり拾い上げるのは大変危険です。必ず安全な場所に車を停めてから確認しましょう。

4. 同乗者との会話に夢中にならないようにしましょう。

トラックに限らず運転する車両に同乗者がいる場合は、適度な会話は漫然運転や居眠り運転防止という良い面もありますが、会話に夢中になると同乗者の方を向いたりして前方に対する注意が欠ける可能性があります。運転中の同乗者との会話は、ほどほどにしましょう。

今回の事例は、「信号はまだ青色なのでこのまま行けるだろう。」と思い、携帯メールを操作しても大丈夫という過信や油断が事故につながってしまいました。交差点は「事故多発地帯」ということを理解し、事故への警戒心を高め、交差点事故の根絶に努めましょう。